

平成 20 年 7 月 27 日(日)

岡山県医師会女医部会総会 挨拶

岡山県医師会女医部会
部会長 中島道子

本日は、「地域医療崩壊阻止のための決起大会」と日程が重なってしまいましたが、皆様ご参加いただき大変ありがとうございます。

岡山県医師会女医部会の第 2 回総会を開催するに当たりご挨拶申し上げます。

平成 14 年に小山武子先生を部会長として発足以来、女性医師の勤務環境、保育・育児に関するアンケートなどを実施し、現状をみて参りました。

また、医学生・女性医師と岡山県医師会女医部会との懇談会を開催し、卒後研修の動向、研修後の進路、研究、結婚・出産・育児について意見を交換し医業を続行しやすく、また、できるだけ中断しないよう先輩女性医師として意見を述べさせていただきました。

近年、医師不足・医師の地域偏在・勤務医の過重労働などが、問題視されて参りました。

平成 20 年度は医師国家試験合格者のうち女性が 34%を超えました。

女性医師が研修医・専門医の勉強、研究・教育に携わる過程で、多くの場合結婚・妊娠・出産・育児・介護が避けられないのが現状と考えます。女性医師の 30 歳代での就業率の低下が現実問題としてみられます。

再就業にはかなりのエネルギーを要することが多いと思われまます。できるだけ離職してしまわないよう、一時期は、短時間勤務やワークシェアリング、当直免除などができるような環境整備も必要と思ひます。医療崩壊をくいとめるためにも、女性医師が医業を続けやすいようにワーク・ライフ・バランスの改善を図り、医師全体の働き方を考え直し、女性医師が働きやすい環境が、男性医師にも働きやすい環境となるよう活動していきたいと思ひます。

日本医師会の医師再就業支援事業として日本医師会女性医師バンクが、平成 19 年 1 月に開設されました。平成 20 年 6 月までの 1 年 6 ヶ月の間に 232 名の求職者があり、77 件の就業成立と 8 件の再研修紹介が成立したと報告がありました。

岡山県医師会ドクターバンクの活性化を目指し、女性医師の登録を積極的に受けられるよう女医部会として活動したいと思ひます。

新医師臨床研修制度により臨床・研究の方法も多様化しました。再研修の要望もありません。今後、大学病院など教育機関とも連携していくことが必要と思ひます。

皆様と女性医師の声を医療界・地域社会に発信していきたいと思ひます。

どうぞよろしくお願ひいたします。